



これまでのあゆみ
U30 の視点で都市を思考する

U30 City Crafters

U30 City Crafters とは

私たちは、若者なりの「まち暮らし」のあり方を探求し、まちに関わるための新しい入り口、新たな関わり方、新たな巻き込みを考え、実践していく団体です。

- ・ 近くに公園のような場所があり、子どもとたくさん時間を過ごせるまち
 - ・ 近くに銭湯があり、疲れを癒してリフレッシュできるまち
 - ・ お祭りの中で近隣の人々とワイワイ楽しめるまち
- こんなまちの風景をもっと実現できないでしょうか？

私たちはまちの一員として、まちを使いこなしながら暮らす「まち暮らし」の視点をもつことで、日常がより豊かになると考えています。

しかし、現状では 30 代以下の若者はまちに関わりにくい、もしくは関わるきっかけが少ないのではないのでしょうか。「シティ・クラフターズ (City Crafters)」はこのような状況を打破するために、若者なりの視点でまちの豊かさを探していきます。



西 昭太郎

合同会社マチトワ /
Minecraft カップ

「つい」やってしまう企画、30代で！不動産を活用したエアリアルノベーションに挑戦したい！



小川 華歩

教育業界勤務

小学生から大学生向けの建築ワークショップをやってみたい



ウオングラ ハルシット

環境省(タイ)

20-30代しかできないまちづくりって何かみんので考えたい！外国との比較もしたい！



山本 修太郎

株式会社タウンキッチン /
一般社団法人 HiCO-BAY

それぞれでチカラをつけて、事業とアート活動の中間領域みたいな、楽しいプロジェクトをつくりたい！



蔭山 亮

東急株式会社

東京で“近所付き合い”を流行らせたい！不動産・建築業界に横串を刺したい！



洲崎 志織

野村不動産株式会社

大事にしていることは素直さ。U30のうちに、“自分なり”のまちとの関わり方を見つけたい！



池田舞香

デザイナー

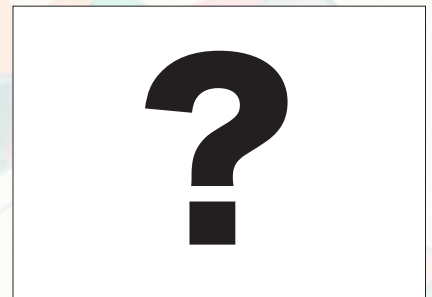
つよつよデザイナーママになりたい



柏木美紗子

ビアウォーカー

山手線のブルワリーを中心に巡り、クラフトビールを飲みながらまち歩き！まずは一杯飲んでから、まちを語りた。



名前

所属や肩書き

U30でやりたいこと

『かっこいい大人達を知る』を終えて 対談企画まとめ

U30 City Crafters では、楽しくまちで暮らすコツ、まちの関わり方、都市での楽しみ方などについて自分たちだけで語るのではなく、新たな視点でまちを視る機会をつくるため、メンバーが思う「かっこいい大人」をお呼びし対談を行っています。今回は、2022年の1年間で計5回行った対談をメンバー間で振り返りまとめました。
(対談者の所属は対談当時のものです)



(左) 2023.11.19 オンラインでの対談振り返り様子。
(上) 2023.12.2のシティラボ東京での対談振り返りの様子。



次ページ以降、発言者を小川=O、ハル=H、蔭山=K、西=N、山本=Yのイニシャルで表記します。

まちの合意形成は市民性の育成にある？！

秋田大学 教育文化学部 社会科教育研究室 専任講師

加納 隆徳さん

Hの東京学芸大学附属高校の公民の先生であり、現在は秋田大学・教育文化学部・社会科教育研究室に務めています。



H：加納さんの話は、「市民性の育成」と「切実性」がキーワードだったね。

K：市民性の育成によって、まちの合意形成がうまくいくことは想像ができるけどやり方が難しいよね。

O：高校教育で社会に目を向けさせるために、バイト先で必要な「労働基準法」の授業をしたことで高校生にとって切実性のある議論になったとの話は興味深かった。

H：切実性は自分事化していることだと思う。まちに対し切実に思う課題意識があれば真剣にまちのことを考えるよね。

まちへの危機感をもち人と向き合う。思いを馳せる。

株式会社松岡塗装店 代表取締役／香美町議会議員ほか

松岡 大悟さん

兵庫県の人口1万6千人ほどのまち香美町で建築塗装業を営みながら、まちづくりに取り組むNPO法人の運営、鳥取の市街地活性化に取り組むまちづくり会社の役員、町議会議員としても活動をされています。



N：松岡さんはまちづくりは、「一人ひとりに思いを馳せること」とおっしゃっていた。経済的な合理性と違う軸でまちをみていて、人と向き合いつつ、ビジネスの感覚もお持ちだった。

Y：生まれ育ったまちに住み続けられているから現場の危機感がリアルに伝わってきた。若い僕らの話も熱心に聞いてくれて嬉しかった。

O：松岡さん自身が話しかけやすいお人柄で魅力的だったよね！まちに関わるときに一番大切なことは人間関係だと思うから安心感や信用できそうな雰囲気も大事だと思ったな。

ネットワークをつくり、 まちの人と一緒に楽しんで取り組む ” 営業カスキル”

熱意ある地方創生ベンチャー連合事務局長，長島町地方創生統括監
土井 隆さん

「自治体×ベンチャーで取り組む地方創生」「マインクラフトを活用したまちづくりワークショップの開催」「東京と鹿児島との2拠点で働きながら取り組む地域づくり」など、街とさまざまな関わり方をしている実践者です。



K: 土井さんは IT とビジネスをまちづくりに活かしてた。大手企業で営業成績 1 位の実績もあって凄いな。

H: 地域との関わりも、交渉力やコミュニケーションスキルが必要な場面が多くあるから営業経験は強みだよな！

N: 土井さんが、「まちと win-win の関係を築ければ組む価値がある」とおっしゃっていたのが印象的だった。

O: win-win の関係を築くのも人を巻き込む力も企業でのご経験されたことが活かされているんだろうね。ご自身も楽しんでまちに入っている姿がよかったな。

地域の人と関係を築き仕事にする

空間時間

遠藤 ちえさん、高畑 勝さん

Oが学生時代に所属していたゼミで携わっていた東京都日野市の駅周辺まちづくり計画の一環で知り合い、日野のまちに住み、まちの人と直接的に関係を築きながら仕事にしています。



Y: 高畑さんは、地域で「お困りごと」の相談を仕事に結びつけられていた。また、地域での活動を「参加型」「自主型」「協働型」に分けて考えていることが新鮮だった。

N: 地域から仕事をつくり出す方法を試行錯誤された結果行きついた考え方というのがわかるお話だったね。

O: 演出家の遠藤さんが、まちに対して「まちの表情」と表現されていたことが印象的。

K: まちには人がいてこそ様々な場面がうまれるよね。高畑さんや遠藤さんの仕事は地域なくしては生まれない仕事だったね。

すぐやる、いまやる、全部やる！大家がまちを楽しむ

マイクロデベロッパー

漆原 秀さん

自らをマイクロデベロッパーと名乗り、移住先の館山市でエリア、物件の開発をしながら、暮らしを提供できる賃貸住宅やシェアハウス、宿泊業や飲食店などの新しいビジネスをおこしています。



O:大家として、住人の人と顔が見えるコミュニティをつくっていたね。住宅だけでなく、まちの図書館やシェアハウスまでつくって、まち全体の再生にも取り組んでいるところが漆原さんならではのね。

Y:私は、実際に地域にコミットしながら、自分の食いぶちになっているところが参考になったな。

N:不動産事業を始める前に、不動産関係の本を40冊を読んだ話と「すぐやる、いまやる、全部やる」というモットーから大量の知識のインプットとすぐに試してみることの大事さがわかった。これは対談以降も実践してる！

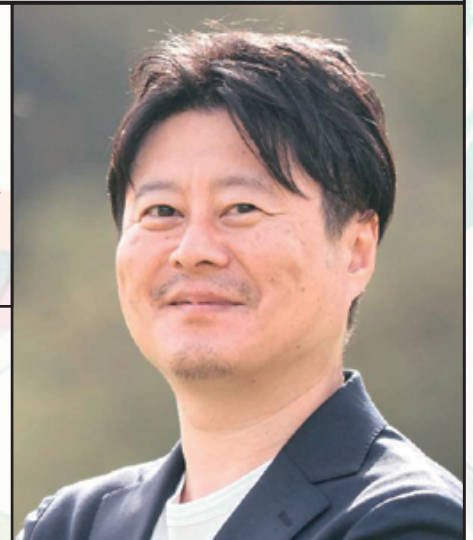
会社に埋もれそうになっても

自分の信念を見失わないように踏ん張り、そして進む。

株式会社 LINKER 代表取締役

長江 雅史さん

大手不動産デベロッパーとしてご活躍された後、不動産ベンチャー企業を経て、現在代表を務める株式会社LINKERを起業されています。



Y:長江さんは、新卒で大手企業やベンチャーをご経験し、壮絶な挫折を経験して40歳で起業されている。何度も這い上がっていて凄いと思った。

K:ぼくは最近業務に追われて「違うことがやりたい」と思っていたけど長江さんの対談で話してやりたいことをやるために与えられた環境で経験を積もうと思えた。

H:私は、会社外にも関心や繋がりを持たなきゃと思った。また、信念と経験があれば、自分自身を行きたい方向に連れていける気がした。

ワクワクするまち暮らし コミュニティフォーラムの開催

2023年3月24日に、U30のキャリア形成にテーマを絞り、初めてU30主催のトークイベントを開催しました。セッション1では、「働きながら子育てをする生き方を知って考えるこれからのキャリア」と題し、子育てと仕事を両立する30代のゲストをお招きしてお話を伺いました。

セッション2では、「U30からつくる、オンリーワンのオリジナルキャリア!」と題しU30メンバー同士が対談する形式で学生企業や大学への就職、兼業・副業、仕事以外での活動など、U30世代のキャリア観について考えました。

U30メンバー・登壇者・参加者での交流会では、20人以上で近くの居酒屋に駆け込むほどの盛り上がりを見せました。



働きながら子育てする生き方を知って考える これからのキャリア

仕事と子育てをしながらキャリアを築いている3名をゲストに迎えました。それぞれのゲストから、現在の仕事や子育て、今後のキャリア、会社選びのヒントを頂きました。子育てをするしないは人それぞれですが、U30世代が今度のキャリアを築く上で自分自身や周りへの理解のためにも知っておくべき内容だと感じました。以下、3つの気づきポイントを記載します。

① 働き方の選択肢を広げる

会社員時代、往復に6時間かけ仕事に向かっていた荒木さんは、育児を家族に任せている状況だったそうです。お子さんが3歳のタイミングで学生時代の夢でもあった起業をし、今では時間のコントロールが利く生活をされているそうです。会社で働く以外にも子育てを機に働き方を柔軟に変えることも考え方の一つだと思いました。

② 育児休暇の期間もキャリアアップに使う

育児休暇中に育児だけをするのではなく、キャリアアップにも使えるという気づきがありました。言われてみれば会社には転職の準備をしていた人もいました。

③ 周りの理解やサポートが必要

兒玉さんが、育休を促進している会社でも、上司や部署の「理解」によって全く事情が変わってくるとおっしゃっていた点が印象的でした。また、荒木さんや小川さんは仕事と育児の両立は家族の協力が必要不可欠だとおっしゃっていました。会社選びの際は「理解」という定性的な要素にも着目する必要があると思いましたし、自分の思い描くキャリアを歩むためには、家族との協力が必要だとわかりました。

U30 からつくる、 オンリーワンのオリジナルキャリア！

起業や副業する人が増え、価値観が変わってきています。背景が異なるU30のメンバーである篠永、小川(華)、西で「なぜ今の会社・働き方を選んだのか」について対談しました。

18歳のときにいつかは地元の市長になりたいと思っていた篠永は、就職の時に「市長になることは手段であって、街をよくすることができるのであれば、必ずしも政治家に縛られる必要はない」という考えがあり、現在の不動産デベロッパー業に決めました。西は、直感的に今だからこそその起業でしかできないことがあるのではないかとこの考えから、大学院を卒業してすぐに合同会社マチトフを立ち上げました。ゲームやXRの技術を活用した新しいまちづくりへの参加動機や手法をデザインしています。

小川(華)は、「親が教師だったこともあり教育関係に興味・知識があった」「大学のときの身近な助手の方に憧れがあった」が教育関係のキャリアを歩み始めた理由でした。3人はキャリアの入口として①課題意識 ②興味 ③憧れ ④直感があったことがわかりました。同世代と比較することで、自分のキャリアの考え方を整理する良い機会になりました。

●メンバーに聞いた U30 City Crafters について

U30 に入って良かったこと、期待する事を教えて欲しい！

違う業種に勤める同世代とまちについて考えられることかな
大学の研究室活動と気軽に入れるサークルの間くらいの感覚
でいれるのも心地良いかな

対談企画を通して人脈が広がることも大きいかな
新たな仕事につながったり、ゲストと一緒に飲みに行ったり
するメンバーもいたよね

●メンバー募集 U30 City Crafters ではメンバーを募集しています。
若者なりの視点でまちの豊かさを探して行くことに興味がある人はぜひ
ZINE の最後のページの QR コードを読み込んでみてください。

こんな人におすすめ

- ・「まち暮らし」のキーワードにビビッときた人
- ・同世代のメンバーでこれからのまちについて考えたい人
- ・自分とは違う業種や分野の人と関わりたい人
- ・メンバーを集めてまち暮らしに関連するテーマを深掘りしたい人

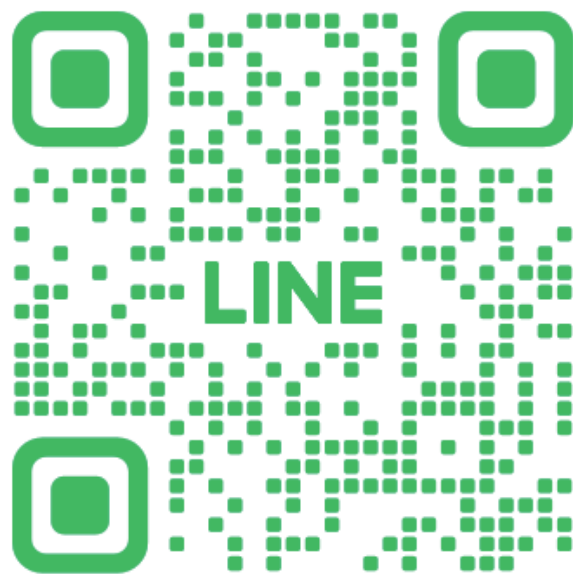


**U30 City Crafters
これまでのあゆみ U30 の視点で都市を思考する**

2024年5月18日 初版発行

**著者
協力
発行**

**小川華歩、西昭太郎
ウォンダラ ハルシット、山本修太郎、蔭山 亮
U30 City Crafters
〒104-0031
東京都中央区京橋3丁目11 東京スクエアガーデン 6階
シティラボ東京**



不定期で U30 の活動などをお知らせします。